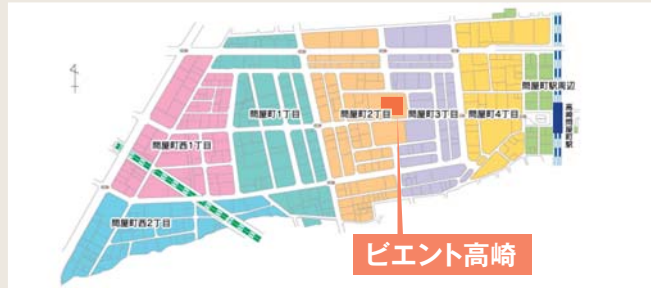


## 高崎卸商社街協同組合

群馬県高崎市問屋町

昭和42年に11万坪の広大な土地に高崎市内の卸商社170社が集まり、日本で第1号の卸商業団地として誕生した。提案型地区計画を活用し、乱開発を防ぎながら適正な商業施設を誘導している。また、組合員が卸以外の事業展開ができるよう、ルールの見直し、販売イベント、インターネットショッピングモール等の運営を支援している。さらに、防犯カメラの設置、公園・駐輪場の管理、大学の誘致など、商業と住環境の融合を図っている。上州どっと楽市、わけあり大処分市などの市民向けイベントも行い、北関東の流通の中核拠点としての地位を築いている。



## 行政の支援を受け 地区計画の策定に基づく 団地づくり

高崎卸商社街協同組合は昭和37年、高崎市内の卸商社が問屋の集団化を図るために設立され、通産省の流通機構構造改革の一環として昭和42年に11万坪という広大な土地に、約170社が集まり、日本で第1号の卸商業団地として「高崎問屋街」が完成しました。

現在では108社の傘下組合員(繊維25社、食品27社、生・消費財56社)と約1,300人の従業員を有し、北関東、最大の流通拠点として発展してきました。

平成16年にJ-R高崎問屋町駅が開業し、問屋町地区計画の施行以来、高崎問屋街には新たな業種・業態の企業が進出するだけでなく、大型マンションや大学まで進出しています。

一方、仙台卸商センターは昭和40年、仙台市内に分散していた卸売業者が団結して、設立されました。現在、広さ52haの土地に約260社、約5,000人の従業員を有し、食料品から繊維製品、日用雑貨、建材燃料、機

械金属といった他業種の企業が集積し、さらには展示ホール、会議室、音楽工房、演劇練習場などの施設が充実するひとつの「まち」として発展してきました。

平成20年に卸町地区計画を作成し、平成27年には仙台市営地下鉄東西線卸町駅が開業するなど、人・モノ・情報・文化が行き交う、多くの都市機能を兼ね備えた東北地区最大規模の卸売団地であり、その規模、機能は、まさに「新都市」であり、見事なまちづくりに取り組んでいると感心致しました。

この両団地の特徴は、高崎市、仙台市の支援を受けて、都市計画法に基づく地区計画を施行し、新たなまちづくりに取り組んでいることです。

私も協同組合静岡流通センターは、現在、田辺市政のご支援を受けて、静岡流通センター第2団地構想の実現に向けて努力しているところです。

今後は、昭和50年に完成した当卸売団地と昭和51年に完成した隣接する静岡市中央卸売市場を含めたこの地



(協)静岡流通センター  
理事・事務局長

上川雄司さん